

# 次世代のロールモデルを目指して ～等身大の働き方・考え方から親しみと、 ちょっとした憧れを抱いてもらうには～

執筆▶ 多田文香 合同会社NEXT 代表社員 介護支援ネクストかとり 管理者  
主任介護支援専門員 作業療法士

ケアマネジャー（以下、ケアマネ）の平均年齢は53.4歳\*。40歳でも若手といわれる職種となった。合同会社NEXTの若き経営者、39歳の多田文香さんは、作業療法士の資格を持ちながら、職業としてケアマネジャーを選択し、居宅介護支援事業所の管理者、さらに職能団体の理事としても活躍している。「多忙といわれているケアマネジャーの働き方は、実は子育て中の女性にピッタリ」と、2児を育てる当事者として、自らをロールモデルにし、若手ケアマネジャーを増やす発信も活発。実際に40歳未満の入職者を増やしている。 ※介護労働安定センター 令和6年度「介護労働実態調査」

## 若手の私が、ケアマネの魅力を発信する理由

私は21歳の時に作業療法士免許を取得した後、介護施設でリハビリ職として従事していました。その後、地域で住民の人たちに寄り添った支援がしたいと思い、27歳の時に、「子どもから高齢者まで、みんなが住みよい町をつくる」というビジョンのもと、作業療法士の夫とともに合同会社NEXTを起業しました。

現在では、訪問看護、居宅介護支援を2カ所、地域密着型通所介護を3カ所、訪問介護、共同生活援助、結婚相談所の9の事業所を、従業員70名とともに運営しています。プライベートでは起業後に2人の子どもの生まれ、母親としても日々、奮闘しています。

そんななか私は、36歳の時に千葉県介護支援専門員協議会（以下、協議会）の理事になりました。協議会では、ケアマネの仲間が困っていることや資質の向上に向け、課題を共有し話し合いをします。その際に、成り手がいない（特に若手）課題に直面し、理事の責務を考えた時に私ができる事は何かを考え、若手である私自身がケアマネの魅力を発信することが必要だと考えました。以下、主な取り組みをご紹介します。

## 魅力発信の取り組み

### 1. 南関東ブロック大会や全国大会での発表

令和5年度の日本介護支援専門員協会 南関東ブロック大会で千葉県のシ

ンボジストとしてお声がけいただき、「ケアマネジャー不足の時代 これからの時代に対応したケアマネジャーを育成するには～利用者にも、そして時代に求められる育成支援について～」という題で登壇しました。翌、令和6年度の全国大会では、「ケアマネの未来を考え、行動、発信する～40歳未満の私が次世代に想うこと～」という題で発表しました。

私は保育園生と小学生の子供を育てながら、意欲的に且つ楽しく、管理者として実務を行っていることを話し、次世代の1つのロールモデルとして意識していただけるように自身が広告塔になる点、部下を育成する上で大事にしていることは、ICTを使うのは必須の時代だが対人援助技術が根本にあり最優先としている点や、地域に顔を出すことで対人援助技術やコミュニケーション能力が